

ISSN 0387-6489

常葉学園短期大学 紀要

第 34 号

常葉学園短期大学

2003

目 次

韓国の保育実践の特徴と類型化に関する日韓比較

……………長崎イク・金田利子・渡邊保博・郷式 徹・サトミ. I. ティラー……………(1)

アレクセイ・ニコラエヴィッチ・レオンチエフ

—生誕100年を記念して—……………百 合 草 禎 二……………(15)

アース・ワークスを訪ねて ………………長 橋 秀 樹……………(35)

コンテンツ管理システムを利用した学習者支援ウェブサイトの構築

……………市 川 真 矢……………(55)

家族病理・暴力の現代的構図と刑事法、司法福祉の発達 ………………巻 口 勇 一 郎……………(71)

学生のセキュリティー意識と課題 ………………谷 口 真 嗣……………(109)

本学専任教員・研究活動記録 2002年 ………………(117)

宮部みゆき『理由』に見る都市の表象 ………………平 井 修 成……………〔 1 〕

中国の小鳥前生譚 (二)

—追加資料①— ………………繁 原 央……………〔 13 〕

て保育実践の類型化を試みてきた。これによると、保育実践の類型化に関わって3因子が見出された。第1因子は保育環境、第2因子は保育者と子どもの関係を中心とした保育方針・保育内容、第3因子は大人の立場であった。この因子分析による客観的分類は、金田の「解釈法」によって分類した結果と対応があることが分かった(2002)⁵。即ち、因子分析によって分析された結果の中で、第1因子と第2因子をグラフ上で表示すると、解釈的方法によりタイプ分けされた4園が対称的座標軸にプロットされ、概念としての保育実践の類型化と因子分析の結果とは対応させて考えることができることが示された。(第3因子については項目数が少ないためはっきりしたことはいえなかった。)この因子分析による類型化は、日本のみでなく他の国でも対応できるものであるかを観察と合わせて、韓国を対象として検討する。保育の質に関する研究の中で、保育の質についての国際的基準を作成することが可能であるか、作成が可能であるとしても、それが望ましいことなのかについては論議がある。ピーター・モス(2001)⁶は、「私が『国際ガイドラインや標準』という考え方に不安を抱くのはそれが多様性を否定し、標準化をコントロールすることになる可能性があるからです。」と述べ、国際的基準を作成するためには、多様性を認めることが大前提であるとしている。基準を作って、そこにすべてをあわせようとするのは問題であるが、さまざまな国、民族の保育経験の蓄積という意味で、他国の保育実践を自国と比較することは、重要なことであると考えている。

なお、韓国の乳幼児期の保育については、日本保育学会第56回大会における李基淑教授の報告(2003)⁷によると、教育人的資源部が管轄する幼稚園と保健福祉部が管轄する保育施設に二元化されている。幼稚園には国・公立と私立があり、3歳から小学校就学前の子どもを保育する。半日保育であったが、最近は5-8時間の延長制や8時間の全日制の比率が高くなってきた。保育施設(オリニジップ・ノリバン)は国・公立の他、民間、職場、家庭と多様な形態があり、それぞれについて設置、運営母体や児童数、名称が決められている。オリニジップは公立、法人、個人、職場が設置・運営する施設であり、ノリバンは個人が家庭またはまたはそれに準ずる施設で設置・運営する施設である。0歳から小学校就学前の子どもを保育する。保育時間は12時間が原則であるが、8-12時間が大半である。幼稚園の教育課程は1969年に制定され、以後5回の改定を経ている。全人的成長のための基礎教育として幼児の日常生活に必要な基本能力と態度を育てることに重点を置いている。5つの具体的目標を置き、5領域のそれぞれに具体的内容を定めている。教育人的資源部は幼稚園教育課程が円滑に現場適用されるように、「幼稚園教育活動指導資料集全12巻」を開発して、配布している。保育施設については、保護、教育、栄養、健康、安全、父母に対するサービス、地域社会との交流等のような基本原則を根幹にしており、標準保育課程を開発中である。保育サービスの質的水準に対する体系的管理を行なうために保育施設評価認証制を準備中である。

従って、幼稚園教育課程運営の重点がどこであっても徹底するように図れており、保育施設についても、標準化が図られていることが伺われる。

2. 方法

韓国ソウル市の幼稚園、オリニジップ(保育園)を見学すると共に、各園の園長(所長)

にアンケート調査を行なった。アンケートは郷式徹を中心として一昨年作成したものを韓国語に翻訳し、使用した。観察の前後に園長（施設長）と我々との話し合いを行ない、アンケートの内容、観察内容について相互理解を試みた。

- ・実施時期 平成14年9月9日(月) および10日(火)
- ・観察およびアンケート実施園 6ヶ園
幼稚園 私立2ヶ園、公立1ヶ園 オリニジップ 私立1ヶ園、公立2ヶ園
- ・観察者 長崎 金田 郷式

3. 結果

(1) 観察による韓国の保育施設の状況

① E女子大附属E幼稚園

i 観察日時 平成14年9月9日(月) 9時～11時

ii 全体の状況 E女子大の中にあり、緑に囲まれ、園庭には大型遊具もあり、環境に恵まれている。園長はE女子大の李基淑教授が兼任し、毎日幼稚園にこられるとのこと。李教授の説明の後、年長クラスを主に各クラスを観察し、E幼稚園の紹介ビデオ（15分）を見せてもらった。

iii クラス編成

半日クラス—3歳、4歳、5歳児各クラス

全日クラス—4、5歳児混合（E女子大で働いている親が多い）

5歳児は30人1クラス、保育者は2人、1人が主で、もう1人は補助。

・半日クラスのプログラムのモデル

9時登園 10時まで自由活動 10:00～10:15 片付けと間食

10:15～10:40 保育者との活動 10:40～10:55 うた

10:55～11:55 室外の自由活動 11:55～12:00 反省

・全日クラスのプログラムのモデル

8:30～9:30 登園 9:10～計画の時間(なにをするか子どもと先生が話し合う)

11:00～先生と活動 食事、昼寝、午後の活動 5:00 降園

iv 年長クラスの状況（9時半～10時半）

保育室は机、もの入れ、本棚などでいくつかの空間に区切られている。15人ほどの子どもが各コーナーで遊んでいた。保育者は1名。（半数の子どもは2階の話し合いの小部屋で別の保育者と話し合っていた。）

工作のテーブルでは3人の子どもが保育者に話をきいて、貝に砂絵のように色を塗ったり、砂を貼ったりしていた。戸棚に絵の具、紙、クレヨン、砂、貝等がたくさん置いてあった。

中央のテーブルでは2人の女の子が紙にハングル文字を書いていた。

じゅうたんの上では7人の男の子がレンガのような大きさの長四角や円筒上の紙のブロックや普通の積み木を使って遊んでいた（写真①）。

パソコンでは女の子が化の絵を出して、ちょうを画面で動かしたりしていた。

絵辞典の作成—1人の女の子が何か始めたので、何をするのかをきいた。ボードにいろんな物の絵とその名前が書いてある紙が貼ってある。机の上にそれらの絵が1つずつ小さな紙に描いてある。子どもは白紙を数枚重ねた冊子を持っている。好きな絵を1つ取ってはさみで輪郭を切り抜いて紙に貼り、その下に文字を書く。色をぬって1ページできあがり。次のページには別の絵を貼って文字を書いていき、自分の小さな冊子の絵辞典を作る。ボードの壁掛けポケットに製作中の絵辞典をしまっておく。

予定表(写真②) 一壁に顔写真を付け個人別に区切った紙が貼ってある。個人の領域毎にくぎが数本打ってある。机上の箱の中に活動をひとつずつ絵に描いた小さな紐付きの紙が入っている。子どもは朝登園すると、今日は何をするかを考え、やろうと思っている活動の絵を選んでひとつひとつくぎにかける。途中で予定が変わったら掛けかえる。帰る前に予定表と実際にやったことについて(保育者と)反省する。

10時すぎに2階の子どもが戻ってきて、クラスで遊んでいた子どもと交替した。後で2階の小部屋を覗くと丸くなってシーンとした感じで話し合いをしていた。

後の質問の中で、話し合いのテーマは教育省から1年に10個が決められてくるとのこと、今日の話し合いは、夏休みが終わったので休み中のこと、近々ある盆祭りのことなどであること、その他、生活の中で生じたトラブルについて話し合うこともあるということがわかった。

4歳、3歳のクラスも見て園の紹介のビデオを見た。園の沿革、1日の生活、活動の様子、1年の行事などがわかりやすくまとまっていた。

全日クラスの4、5歳児については廊下のガラス越しに覗いたのみ。

v その他気がついたこと

制服、制帽などはなく、母親あるいは父親と手をつないで、「ちょっと散歩に出ました。」というような感じで、手ぶらで登園する。

廊下にクラス毎に子どもの身長グラフが貼ってあった。等身大の目盛で、身長測定の結果を記して子どもが線で結び、成長の様子が一目で見ることができた。

遊戯室は地階にあった。坂になっているので光は入る。

② I 幼稚園

i 観察日時 9月9日(月) 13:00~14:00

ii 全体の状況 1983年に設立された。私立だが、当時幼稚園の質がまだ良くなかったので模範になるようにと、政府の援助で作られ、最初は、幼稚園という名ではなかった。当時のE幼稚園の園長が園長に就任した。1992年に政権が変わり、幼稚園になり、今は政府の援助はない。韓国子ども育英会附属施設として、幼児に健全な市民としての資質を育てることを教育理念として、教育課程は遊びを中心に教育部水準で行う。教育費は高い方で、室内外の環境は良い。1クラスの広さは30平方メートル。

韓国子ども育英会は幼児教育の教材、玩具、絵本などを作ったり、現職者の再教育を大々的に行なったりする大きな組織として運営されている。

iii クラス構成

3歳 1クラス30名 保育者2名、4歳 1クラス30名 保育者2名、
5歳 2クラス各32名 保育者各1名。

正規の保育時間は半日だが、3歳から5歳のうち24名は預かり保育のような形で6時まで保育している。保育者2名 各クラスの保育者とは別の保育者、副園長がそのうちの1人。今は実習生が1名入っている。

iv 子どもの様子

半日クラスは降園後なので、保育室と終日クラスの様子を観察。

保育室は2つつつトイレを中にしてつながっている。外側に楕円形の小部屋を共有し、小部屋は話し合いの時などに使われる。各保育室は、遊びのスペースが、6つくらいに分かれている。5歳児クラスには2階建てのベットのスペースがあり、終日クラスの子どもの昼寝用となっている。終日クラスは保育者2人と、実習生1人と4歳児クラスの保育室で遊んでいた。

ままごと道具や人形の家のところの隅に華やかなドレスがいくつもつるしてあり、2人の女の子が髪飾りをつけ、ドレスを着ていた(写真③)。1人の子はもう1人の子にドレスのリボン飾りを結んで着付けをしてもらっていた。女の子がドレスのところへ来てドレスをからだにあてて着ようとするが、やめて、別の服をあてて見たりしたが、結局着るのを止めてしまった。

ブロッカー積み木を積んだり、動かしたりしている。

コンピューター—1人の子が先生と話しながら取り組んでいた。女の子がのぞきこんで隣のコンピューターで活動し始めた。

工作のテーブル—7人の子どもが何かを作っていた。

戸外には遊具がいろいろあり、緑も多くゆったりしていた。水車があり、小さい山を作って野の草を植えてあった(写真④、⑤)。

③ Sオリニジップ

i 観察日時 9月9日(月) 16:00~17:00

ii 全体の状況

職場の保育室。ソウル特別市の職員の子どもや他の職場で働く人の子どもがいる。情報センターの建物の中にある。地下室(遊戯室と食堂)と1、2階(保育室)がオリニジップ、3、4階は情報センター。食堂は座卓の形、半地下で上部に窓があるが、遊戯室は完全に地下で窓もない。1、2階の廊下が広く、ソファのコーナーがあり、そこで朝食を食べることもある。外はビルが密集していて遊び場が小さい、

夜9時までいる子どももいるので、そういう子どもには夕食を出す。

3ヶ月~就学までの子ども 193名

保育時間 午前7時30分~午後7時30分

保育士16名、看護師(保育士の資格有り)1名、栄養士1名、食事担当2名、事務1名、掃除等の担当者2~3名。

親の要求を忠実に満たそうとしているように見受けられた。

iii クラスの観察

1歳児—4名、はさみを持って紙を切っていた(写真⑥)。クレヨンで絵を描いていた。

2歳児—先生が子どもを集めて話しをしていた。手遊び

5歳児—コンピューター 4人、はさみと折り紙、ブロック、本を読む等の活動
子どもたちが口々に挨拶してくれた。

* ソウル情報センター

インターネットで教育の情報を提供する施設。教師を募集し、教育プログラムを作り、ネットで公開。それを見て現場の教師が適用してプログラムを作り、実際の結果を寄せる。メールで情報のやり取りをするが、1学期に2回は集まって全体会議をする。市民や親も見ることができ、親への情報も載せている。

職員—所長以下修士以上の方が3人いる。ホームページの管理をする担当者 1名、資料展示室の案内をする担当者 1名、おもちゃ図書館員 3名。

正規が5名、パートタイム6名の職員の他、インターネットの情報管理の協力者 32名がいる。相談室もある。

④ K オリニジップ

i 観察日時 9月10日(火) 10:30~11:30

ii 全体の状況

教会に附属している保育園。1997年 保健福祉部でオリニジップ設立に2500万又は5000万ウォン出してくれることになったので、2500万ウォンの援助で教会の建物を使ってオリニジップを設立した。週日はオリニジップで週末は教会で使うので物を片づけたりしなくてはならないため、環境が十分整えられているとは言えない。戸外には遊び場もない。近くに公園がある。保育時間は平日、午前7時~午後7時。

園服があり、かばんも揃いである。韓国でも事件があったので、入り口はかぎがかかっていて、遅れてきた親子や訪問者は中からあけてもらう。

iii クラス構成

定員 51名 2歳未満 2クラス 12名、2歳 1クラス 10名

3歳 1クラス 11名、4、5歳 1クラス 18名

保育者 5名 (各クラス1名)、食事 1名、園長

iv 園の構造 保育室は仕切りの壁が可動式で、上面はガラスになっている。下にはロッカーが置かれているが、隣のクラスの様子が見え、音もきこえる。保育室毎にピアノがある。

v 子どもの様子

4、5歳クラス~保育者が前で椅子に腰掛け、子どもは集まり、歌を歌っていた。先生が1人の子どもを前に呼んで少しはなしをさせる。絵本を持って子どもと話す。読んでやる。子どもに問いかけたり、子どもの問いに答えながらよんでいる。隣のクラスが「ちょうちょ」を歌っているのがよくきこえる。

3歳~子ども9人 保育者1人。保育者が相撲風の絵を見せて説明、自分で「相撲」の様子を演技した後、子どもを順に2人1組にして「相撲」を取らせる。組み合っている様子を他の子どもが見て、いろいろいっている。ほかの絵を見せて何をしているのか子どもに聞く。子どもは手を上げて次々何か言って、応える(写真⑦)。

2歳~子ども7人に先生は1人。先生が子どもを集め、緑のボードに字を書いたカード

を次々貼って、何か説明していた。カードをはずして、丸、三角、四角の画用紙を貼って、説明している。子どもたちは私たちがちらちら見ながらも、説明を聞いている。ひとりひとりの名前を呼ぶと、ひとりひとり出てきて、ピンク色の花瓶のような形の色紙をもらい、テーブルにつく。紙の中にいろいろな色と形の小さな紙をスティックのりで貼っている。先生は子どもの間を回りながら話しかけ、紙に名前を書いていく。

2歳未満～子ども10人くらいに先生が2人。先生が子どもを集めて動作をつけながら「きらきら星」のメロディを歌っていた。子どもたちは私たちが気になるらしく、しきりと後ろをみる。緑色のボードに名前を貼る。子どもの名前をよび、名前を書いた黄色又はピンクのカードをわたされ、前に出てボードにカードを貼る。色と性は関係ないようであった。みな貼り終ると、手遊びをした。

⑤ 公立Dオリニジップ

i 観察日時 9月10日(火) 13:00～14:30

ii 全体的状況 低所得者層の住む地域の保育園、坂の上であり、ゆったりした感じがある。

定員96名 7クラス(2歳未満 2クラス10名、2歳 2クラス14名 3歳以上4クラス 80名) 3歳以上はクラスの融通がきく。

96名のうち40名は政府の補助金を受けている。1983年からオリニジップ、それ以前は幼稚園、幼稚園のプログラムを取り入れている。地域にはミシンの内職をしている家庭が多く、入園待機者が80～90名いる。16名の母親がローテーションで、1日に1人ないし2人補助に入っている。貧困な地域で、親と子が円滑に生活することを助けていく。地域の子どものオープンにしている、間食もだしたりしている。地域の子どもの来て怪我をしたりする場合にも対応して、保険にも入っている。

盆祭りが近いので太鼓の練習をしており、部屋の中も普段と変わっている。

保育室は棚やロッカー、テーブルでいくつかに区切られ、それぞれきれいに整理され、遊び道具が置かれ、子どもの作品が飾られたりしている。

iii 各クラスの様子

5歳～テーブルに分かれて、ワークブックのようなもので字の練習をしていた。壁に韓国独特の折り方で作った包み紙に手紙を入れて飾っている。

4歳～先生が前に立って拍子を取りながら、小太鼓をたたき、子どもは座って太鼓を足に挟んで太鼓の練習していた。かなり複雑な動作と掛け声をかけて、リズムカルにスムーズにたたいている(写真⑧)。

3歳～部屋のあちこちで自由に遊んでいた。

2歳未満～昼寝からさめて廊下の遊具で遊んでいた。

⑥ 公立H幼稚園

i 観察日時 9月11日 9:30～11:30

ii 全体的状況 低所得者層の多い地域の幼稚園。盆祭りが近く、地域の人に見せるのでその準備をしている。

iii クラス構成 4歳 2クラス 各30名、5歳 3クラス 各30名 うち1クラスは

障害児クラスとの統合クラス、障害児クラス（軽度の子ども、重度の子どもは別の施設）5名。終日クラスには19名の子どもがいる。

職員 園長、副園長、保育者7名、事務1名、整備1名、補助教員1名。計12名

iv 子どもの様子

保育室はいくつかのスペースに分かれていて、すべてのクラスに数台のコンピューターがある。遊戯室は全体で遊ぶには狭いので、使うクラスは使用予定表に書きこんでおく。

5歳～朝の集まりがあり、先生と子どもが話し合っていたが、分かれて、子どもはそれぞれ自分の好きな活動を選んで行なう。1日の予定表があり、朝来るとやろうとするものを順に番号を入れる。お祭りの準備でお面を作っていた。テーブルの上に見本のお面が置いてあり、木のお面にいろいろに紙を貼ったりしている。壁に子どもの遊びの絵が貼ってあり、説明の字が書かれていた。「とうりゃんせ」と思われる絵があった。子どもたちは、次のような、さまざまな韓国の伝統的遊びをしていた。円筒状の容器に2メートルほどのところから、矢を投げて遊ぶ。こまを回してはたきのようなものでたたいて動かして遊ぶ。囲碁をする。豆や栗、くるみの実でお面の顔を作る（写真⑨）等。

統合クラスと障害児クラスはいっしょに保育者の話を聞いていた。障害児もうろうろする子もなく集中していた。

4歳～きれいな色のビニールひもをまとめてはたきの先のようになったものをひざで蹴って遊んでいた。男の子2人がそれを取り合って争い、1人の男の子がもう1人の子のほほをつねって泣かせたりしていた。先生が来て事情を聞いてつねった子に言い聞かせ、つねられた子のほほをなでさせたりしていたが、50センチ四方くらいの大きさの紙に4本の紐をつけたものを持ってきて、争っていた2人の子どもに持たせ、はたきのさきのようなものを乗せて、ぼんぼんと弾ませ、2人で遊ぶように働きかけた。2人はしばらくぼんぼん弾ませていたがすぐ落ちるので、紙だけ持ったり、はたきのさきを足で蹴ったりし始め、矢を入れる遊びをはじめたりした。

外での遊び～遊具を使ったり、滑り台の下の空間に水を運んで砂遊びをしたりしていた。

なお、どの園にも廊下や保育室に大きなよく磨かれた鏡が置いてあったのが、印象的であった。また、さまざまな人種、民族、年齢、職業、障害の状態を表す男女の人形が廊下の戸棚などに飾られていた。

(2) アンケート調査の結果

因子1と2、因子1と3の結果を、日本の平均値と共に図1、図2に示した。

因子1については、6園とも非常に得点が高かった。また、日本では得点の高い園から低い園とばらつきがあり、保育のあり方を区分する指標として有効であった。韓国でもこの6園間で差は有るが、日本の結果と比べると少なく、どの園も著しく高得点であり、その差をもって区分しようとは言いがたい。因子2についても、どこも日本の平均値以上であり、やはり、差は小さい。因子3についても同様である。なお、アンケート項目については、「遊びのルールやおもちゃの使い方について、ことばで説明することはよくある」というのは、どういう内容を指すのか、自由遊び場面で言語的説明を一方的に説明するのか、子どもが聞いてきたときに答えることに対してなのか、「保育者が子ども同士のふざけあい

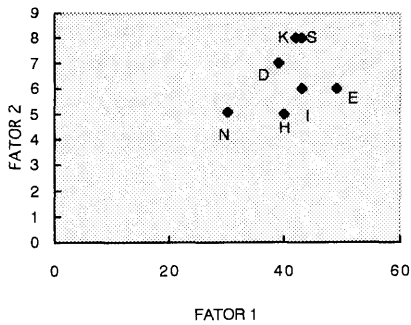


図1 第1因子「保育環境」と
第2因子「保育内容・保育方針」

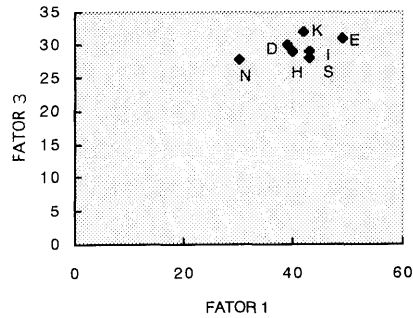


図2 第1因子「保育環境」と
第3因子「大人の都合」

E…E幼稚園、I…I幼稚園、D…Dオリニジップ、K…Kオリニジップ
S…Sオリニジップ、N…日本の幼稚園・保育園の平均値

に加わることもある」とはどれくらいの度合いをいうのか、大人中心因子に関わる「来賓」の範囲等の質問はあったが、おおむね理解された。

3. 考察

① 韓国の保育の特徴について

韓国の保育の状況は、李基淑教授の報告によると、二元化されていること、幼稚園の延長保育、保育園の多様化等、日本の保育状況と共通するところがあり、保育内容についても共通の課題があるように思われた。

今回の観察の中で関心を持ったことについて、観察園との仲介の労を取って下さった鄭美羅教授に質問する機会を得たので、その回答と合わせながら日韓の保育の状況を比較検討したい。

筆者らが関心を持ったのは、1つは予定表である。毎日、園で何をするかについて自分で決めてから活動を始めるということは、自主性、活動の意識性を高めるという点において、子どもの自己調整能力を発達させる役割を持つと思われる。日本の幼稚園教育要領にも、「…幼児の主体的な活動が確保されるよう…」 「…生きる力の基礎を育成するよう…」 とあるように、自分自身が主体として自分のことを決定する自己決定力の形成は、子どもの人格発達の中心点である。しかし、子どもの活動というのは活動のなかで発展し、変化し、意外性を持つ所に楽しさがあり、あらかじめ決めるということは、それに束縛されてしまうのではないかという危惧を持つ。これについて質問する機会があったが、他のことをやりたくなったら、変更すれば良い、また、記入したからといって全部しなくてはならないわけではないので問題ない、記入することによって教師が見て、1つの領域でのみ遊ぶ傾向もある場合、指導できるということであった。もう1つの問題として、「誰と」については記入しない。幼稚園へ来るということは「何を」も大切だが、「誰と」も大切なことである。幼稚園教育要領の人間関係、内容の最初に「先生や友だちと共に過ごすこと

の喜びを味わう。」とあるが、友達と遊ぶ所に幼稚園の意味があるといえよう。しかし、人とのかわり方は自分が一方的に決めるものではない。「何を」という物との関わりは自分がやろうと思えば実行できるが、「誰と」という人との関わりの方は、自分が遊ぼうときめてきても、相手は休みだったり、他の子と遊んでいたり、自分と遊ぶのは望んでいないかもしれない。そう考えると、予定表に書けないものである。活動の大事な半分が記入できないことは、どのように補われるのであろうか。

次に、ちょうどE幼稚園で行われていた話し合いが興味深かった。韓国では、幼稚園の教育課程の中に話し合いがあり、教育省で年に10個のテーマが決められて園にくる。各園は年間計画の中に10のテーマを入れ、計画的に話し合いを行う。話し合いはこの定められたテーマについてだけ行うのではなく、生活の中で必要になったとき、例えば、子どもの間にもめごとがあった場合などにも行う。日本では小中学校にディベートが取り入れられたりして、討論の力を育てることが近年の課題の1つになっているが、幼稚園の教育内容に定められてはいない。教育指導要領に「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、…」とあるように、意見を述べたり、聴き合ったりすることが求められているが、カリキュラムとして話し合いを入れてはいない。しかし、多くの幼稚園、保育園で4、5歳児が運動会や発表会で何をしたいかを決めるときやけんかが起こったときなどにクラス全体で、また、グループで、話し合いを行っている。民主主義社会では話し合いは大切であり、自ら主張するところは主張し、相手の意見も聞き、話し合って物事を決める力を幼児期から形成することは大切なことであるが、どのような機会にどのような形態で行うかについては、今後大いに検討を要する。これに関連して、H幼稚園でたまたま起こった子どものけんかへの先生の対処を見ると、日本の先生と類似していると感じる。あのような場合、日本の先生も双方の言い分を聞き、仲直りさせようとするであろう。それを話し合いの機会ととらえて皆で話し合うこともある。

子どもの活動の中では、文字学習が進行していることが印象的であった。E幼稚園のハングルの練習、絵辞典の作成、H幼稚園の手紙の制作と掲示等の子どもの活動のほか、さまざまなものに字（ハングル）がついており、文字学習に力を入れていると感じた、李教授も、字を書くことは親の強い希望で幼稚園もそれを無視できないが、小学校で字を教えようとする、もう知っているという意欲をそがれるのでマイナス面もあるということで、幼稚園と小学校との連携という点では日本と同様の問題がある。

コンピューターについては、韓国ではほとんどの家庭にコンピューターがあり、普及率は世界一である。幼稚園にきたら使えないというのはかえって望ましくない。コンピューターに集中しすぎたら教師が指導する。コンピューターばかりに走るのは社会的問題である。社会性を持つには人間と人間の関係がなければならない。大学の教養の授業に10年前からコンピューターを取り入れており、誰でもできるということであった。日本では家庭や地域にコンピューターゲームはすっかり普及しているが、幼児教育にコンピューターを取り入れることの是非が論議の対象になっており、保育室で子どもが自由にコンピューターを使えるようになっている園は少ない。また、コンピューターを使いこなせない保育者がまだ多いことと比べると、進んでいるというのかどうかはともかく、差は大きい。

女の子が華やかなドレスで遊んでいて、男の子はブロックで遊んでいるという男の子と女の子の遊びの違いについては、韓国も特に男女の役割の区別をしようとしているわけではないとのことであった。

鏡については、特に意識して置いているわけではないが、子どもは鏡を見るのが好きだし、鏡を見ることによってだんだん自分と分かってくることはあるだろうとの答えがあった。韓国の幼稚園、保育園で鏡が多いと感じたことについて、単なる筆者の印象であろうかと、日本で幼稚園、保育園に出かける際に鏡に注目したが、日本ではやはり、鏡は洗面台の前にあるくらいで、磨き方も不十分なところばかりであった。ある園では大人の等身大の姿見があったが、その前に低い棚が置いてあり、上半分しか見えなかった。また、ある園では遊戯室に大きな鏡がはめ込まれていたが、子どもが走ってきてぶつかりそうになって危ないと、もてあまし気味であった。A.ワロン (1965)⁸⁾、ルネ・ザゾ (1999)⁹⁾等は鏡を通して自己認識の発達を検討している。鏡に対する反応は乳児期の後半から幼児期に変化し、鏡の中に他者を見た段階から鏡の中にいるのは自分自身であると認識する。鏡を見るのが自己認識を促すのかどうかは明らかにされていないが、自己認識とのかかわりを考えると興味あることであると思われる。

さまざまな人形を飾ってあることについては、子どもの頃からさまざまな人間への関心と理解を深めさせたいという意図によるとの事で、とても良いことではないかと思った。

園服については、Kオリニジップを除いて自由であったが、一般的には制服はないとのことであった。子どもの個性を生かすため、規制はせず、好みによって服を着る。園児服があるとみんな買わねばならず、親の負担になる。10年位前までは黄色いカバンに黄色い服が園児のかっこうだった。個性を大切にということで園服もカバンもなくなった。小学校も制服は無いが、中、高校では一時制服をなくしたが、その後、貧富の差が現れるので、制服を復活したところもあるとのこと、個性を重視していることが伺われた。

保育施設については、日本同様、地域の子育て支援が大きな課題であり、園児以外の子どもにも、園を開放し、地域全体で子どもを育てる体制を作ろうとしていることがうかがえた。

② 保育の類型かの日韓比較について。

観察した韓国の6園は相互の類似性が高いように思われる。どの園も物が豊富に有る。園舎が狭く、教会との関係で物の置き場の少ないKオリニジップも、大きな物入れを持ち、廊下にも豊かに物が準備されている。育英会の玩具がどの園にもあり、鏡があり、子どもは登園すると1日の計画を決める、テーマを決めて話し合いが持たれるなども共通している。これをアンケート結果で見ると、韓国は因子1、因子2とも日本に比べてばらつきが少ないことと対応している。設置基準やカリキュラムの規定性とも関係すると思われるが、第56回保育学会での李基淑教授の報告からすると、幼稚園教育課程の徹底については全12巻の解説書を各園に配布しているということで、その均質性、等質性が徹底しているのではないかと思われる。しかし、後日聞いたところでは、今回訪問した園はソウル市で、質のそろっている所であり、地方では差があるかもしれないということであった。とりあえずは、日本の方が価値観が多様であることを示していると考えられるだろう。

このようにばらつきが少ないという結果は、このアンケートが日本においては保育実践

の類型化に意味を持つが、韓国では適用できないということであろうか。しかし、今回調査した園は数も少なく、韓国における保育実践の多様性がどのようなものであるかを今後調査することにより検討してみたい。また、日本との間に大きな違いのあることがわかったが、保育実践の国際比較、保育実践の類型化のための客観的指標として意味をなすものであると考えるかどうかについては、そのような基準が必要であるかどうかも含めて、さらに検討したい。

注

- 1 プライベート・ファイナンス・イニシアチブの略で、民間資本による社会資本整備・運営を進めることを意味する。
- 2 大宮勇夫『『第三者評価事業』は、何を評評価しようとしているのか あまりにあいまいな『保育の質』』月刊保育情報 No.305. p3 2002
- 3 金田利子「保育理念、内容・方法と保育形態」日本保育学会 保育学年報 1981年版 pp39～46 1982
- 4 郷式 徹、金田利子、渡邊保博、長崎イク「幼稚園・保育園の分類尺度（1）」日本発達心理学会第13回大会発表論文集 p334 2002
- 5 金田利子、渡邊保博、長崎 イク「現代日本における保育実践の類型化—その特長による分類：『保育の質』研究の前提として—」日本保育学会第55回大会発表論文集 Pp304～305 2002
- 6 李 基淑「韓国の子女養育支援と乳・幼児の権利保障」日本保育学会第56回大会国際フォーラムⅢ報告資料 2003
- 7 ピーター・モス「国際的基準、それとも数多くある可能性の一つ？」保育学研究 第39巻 第2号 pp169～170 2001
- 8 A.ワロン・久保田正人訳「児童における性格の起源—人格意識が成立するまで」明治図書 pp193～208 1965
- 9 ルネ・ザゾ 加藤義信訳 「鏡の心理学」 ミネルヴァ書房 1999

なお、本研究は、文部科学省科研基盤B2（代表金田「学童期的人格発達に見る乳幼児期の保育の質」の一環である。また、日本保育学会第56回大会に発表したものに加筆修正したものである。観察の仲介の労を取って下さった李教授、鄭教授を始め、快く観察を許可して下さった幼稚園、オリニジップの園長先生及び、職員の皆様、子どもたちに心から謝意を申し上げます。

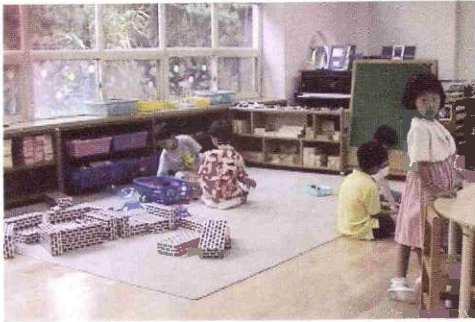


写真1 ブロック等での遊び (E 幼稚園)



写真2 予定表 (E 幼稚園)



写真3 ドレスを着て遊ぶ女子 (I 幼稚園)



写真4 園庭の様子 (水車) (I 幼稚園)



写真5 園庭の様子 (築山) (I 幼稚園)



写真6 はさみを使う子ども (Sオリニジップ)



写真7 絵をみて動作する子ども(Kオリニジップ)



写真8 太鼓の練習 (Dオリニジップ)



写真9 木の実で顔を作る子ども (H幼稚園)